

平成30年度子ども・子育て支援推進調査研究事業

<調査研究報告書タイトル>

子育て支援員研修におけるeラーニングの受講方式の活用等に関する調査研究

<実施主体名>

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社

質の高い保育を提供するために、必要となる人材確保や従事者の資質向上を図るための研修を行うことを目的として、子ども・子育て支援体制整備総合推進事業において、子育て支援員研修事業が推進されている。研修の受講方式及び修了評価について、できるだけ受講しやすい環境を整備することや、研修効果の評価方法についても工夫することが求められている。

本事業では、今後の子育て支援員研修におけるeラーニングの受講方式の活用等の検討に資することを目的として、eラーニングを活用した研修事例や、修了評価も含めた実施方法に関する先行研究を収集したうえで、ヒアリング調査とアンケート調査を通じて、子育て支援員研修においてeラーニングを活用することとした場合の課題やその際の修了評価に関する課題等を整理し、映像等を盛り込んだサンプル版を作成した。また、有識者から構成される検討委員会を設置し、調査研究全般にわたって助言を得た。

ヒアリング調査は、子育て支援員研修を実施している5機関・団体を対象に、訪問によるヒアリングを実施した。アンケート調査は、全都道府県、市町村（特別区を含む）を対象に、郵送配布・郵送回収の方法で実施、回収数は976件、回収率は54.6%であった。

アンケート調査では、平成30年度の子育て支援員研修の実施状況について、都道府県において実施率が高い傾向にある一方、市区町村における実施率が低い状況が明らかになった。コース別に課題となっていることをみると、「地域保育コース/ファミリー・サポート・センター事業」では受講者の確保が難しいという課題があげられており、コースごと、実施主体ごとに実態と課題が異なっていることが明らかになった。また、アンケート調査では、子育て支援員研修を実施するにあたっての運営上の課題として、「受講者の受講内容の習得状況や習熟度の把握が難しい」と回答した割合は高い傾向にあり、ヒアリング調査からも、修了評価の方法や研修の質の確保について課題を感じる実施機関・団体が多い傾向にあった。

アンケート調査、ヒアリング調査のいずれにおいても、eラーニングの活用の課題として、受講者同士のコミュニケーションや対話、質疑応答等による研修の質の向上が必要であるという意見が多くあげられていた。講師や受講者同士がコミュニケーションしながら行っている授業を、eラーニングにおいてどのように工夫していくか、検討することが求められる。一方、子育て支援員研修にeラーニングを導入することについては、アンケート調査では全コースにおいて4割程度が導入してみたいと回答、ヒアリング調査においても講義を中心にeラーニングの活用のメリットが語られており、一定数の自治体や研修の実施機関・団体より期待を得られている。

先行研究やヒアリング調査、アンケート調査の分析結果及び検討委員会での意見を踏まえ、本事業では、全国でも実施率の高い「地域保育コース」の「選択科目：地域型保育」を選択する受講者が、事業概要等の基本的事項を学ぶための科目である「①地域型保育の概要」についてサンプル版の動画を作成した。作成したサンプル版を活用することで、次年度以降にeラーニングを活用した子育て支援員研修の効果を検証することが期待される。